様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

粕屋中心地区

令和7年2月

福岡県　粕屋町

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	粕屋町	地区名	粕屋中心地区			面積	135ha
交付期間	令和2年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和5年度	交付対象事業費	217.8	国費率	0.4		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路（長者原駅前広場整備） 地域生活基盤施設（酒殿駅南口駐輪場整備、長者原駅前情報板、駕与丁公園ルートサイン、舗装ペイント） 高質空間形成施設（酒殿駅南口公衆トイレ(バリアフリー対応)整備、酒殿駅前シェルター、ベンチ整備、長者原駅前シェルター、ベンチ、点字ブロック整備）
	提案事業	事業活用調査（事業効果分析調査）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	－	－	－
	提案事業	－	－	－
新たに追加した事業	基幹事業	－	－	－
	提案事業	－	－	－

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
当初	令和2年度～令和6年度	なし	
変　更	令和2年度～令和5年度		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

	指　標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	ふれあいバスの年間乗車人員	人	32,576	H26～H30の平均	38,000	R6		52,457	○	確定 見込み	●	・令和5年度の最新値で46,240人と目標値を大きく上回っている。令和6年度の推計値においても52,457人と推計されており、目標値を上回る予測となっている。 ・長者原駅及び酒殿駅の駅前整備により、ふれあいバスの待合環境が大きく改善し、快適で過ごしやすい環境づくりに貢献した結果、年間乗車人員数が増加し、目標値の達成となった。 ・酒殿駅南土地区画整理事業による人口の増加やバスの土日運行の影響もあり、酒殿駅利用者及びバス利用者が増えたことを考慮する必要がある。	－
指標2	酒殿駅の1日の乗車人員	人／日	653	H30	1,060	R6		1,138	○	確定 見込み	●	・酒殿駅において、本計画では基幹事業として酒殿駅南口駐輪場整備、酒殿駅南口公衆トイレ（バリアフリー対応）整備、酒殿駅前シェルター、ベンチ整備等を行っており、酒殿駅の利便性が向上し、酒殿駅の一日あたりの利用者数の増加に寄与した結果、目標値の達成となった。 ・なお、最新値（令和4年度）では797人／日と目標値を下回っているが、計画が開始した令和2年度と比較すると着実に増加の傾向にある。	－
指標3	粕屋町に対してどのくらいの愛着を感じているか	%	62.7	H30	65.0	R6		64.9	○	確定 見込み	●	・従前値との比較には、質問文の変更があったことを留意することが必要だが、令和5年度の町民意識調査結果の当該質問の回答割合は64.9%で、目標値の65.0%に及んでいない。 ・しかし、目標とのポイント差が0.1であること、目標値の設定時の趣旨は「割合が増加していること」であり、従前値の62.7%は上回っており、その目的を達成していると判断する。 ・事業との関連性を分析すると、駅を利用する上でマイナスとなるポイントを改善したことにより、一定の効果は得られたと考えられる。	－

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

	指　標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	－		－					－			－	－
その他の数値指標2	－		－					－			－	－

4）定性的な効果発現状況

－

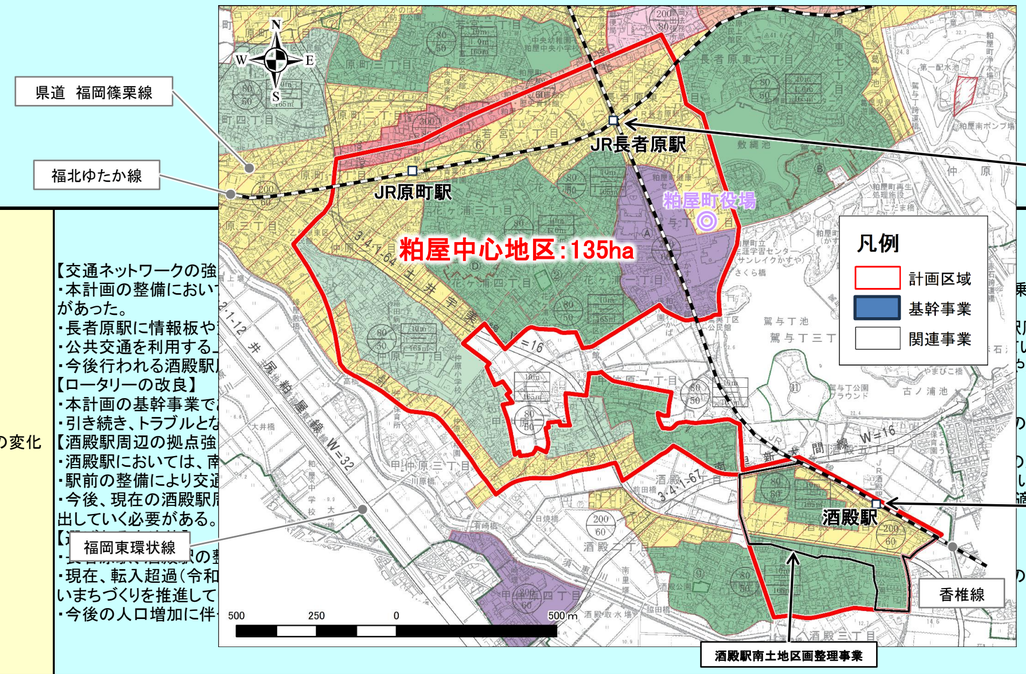
5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		－
住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		－
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		－

様式２－２　地区の概要

粕屋中心地区（福岡県粕屋町）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標　拠点となる各駅を中心に誰もが利用しやすく、誰もが住み続けたくなるまちづくり 目標１　交通結節点となる駅の利便性を向上させ、誰もが安心して利用できる交通拠点の形成を目指す 目標２　町内の公共施設や地域資源等の情報発信をおこない、粕屋町の魅力やイメージ、地域活力の向上を目指す	ふれあいバスの年間乗車人員	単位：人	32,576	H26～H30の平均	38,000	R6	52,457	R5
	酒殿駅の1日の乗車人員	単位：人／日	653	H30	1,060	R6	1,138	R5
	粕屋町に対してどのくらいの愛着を感じているか	単位：%	62.7	H30	65.00	R6	64.9	R6



事業名	整備前	整備後
長者原駅前広場整備 ・A＝73㎡		
長者原駅前シェルター ・A＝100㎡ ベンチ ・N＝2基 点字ブロック整備 ・L＝39m		
長者原駅前情報板 ・N＝4基 駕与丁公園ルートサイン ・N＝4基 舗装ペイント ・L＝290m		

事業名	整備前	整備後
酒殿駅南口駐輪場整備 ・A＝600㎡		
酒殿駅南口公衆トイレ (バリアフリー対応)整備 ・A＝30㎡		
酒殿駅前シェルター ・A＝65㎡ ベンチ整備 ・N＝2基		

まちの課題の変化	【交通ネットワークの強 ・本計画の整備におい があった。 ・長者原駅に情報板や ・公共交通を利用する ・今後行われる酒殿駅 【ロータリーの改良】 ・本計画の基幹事業で ・引き続き、トラブルとな 【酒殿駅周辺の拠点強 ・酒殿駅においては、南 ・駅前の整備により交通 ・今後、現在の酒殿駅 出していく必要がある。 【 ・ ・現在、転入超過（令和 いまちづくりを推進して ・今後の人口増加に伴
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	●公共交通の利便性向上 ・ニーズに合わせた運行計画の継続的な見直しや、バス停の待合環境の充実、交通施設の適正な維持管理等によりさらなる駅やバスの利便性の向上を図る。 ・町民はもちろん町外者へも利用が広がるよう広報活動・情報発信等を推進し、認知度の向上、利用促進を図っていく。 ●利便性の高い交通ネットワークの形成 ・町内に6つのJR駅を持ち、恵まれたインフラを活かすために、パークアンドライドや利用状況に則した運行計画の見直し、新駅の設置等、まちづくりと連携した公共交通網の形成を図る必要がある。 ●まちの魅力の向上 ・町への愛着度を更に高めるため、さらなる魅力づくりが必要である。長者原駅周辺においては「まちの顔」として商業施設の立地誘導や景観向上等により賑わいの創出を図り、酒殿駅周辺においては土地区画整理事業による人口増加に対応するための生活関連施設の確保や地域拠点として都市機能の向上を図る等、まちづくりと連携した施設整備や土地利用を図る。 ●歩いて暮らせるまちづくり ・公共交通だけではなく、歩行者にとって快適な交通環境を確保する。

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　有識者からの意見聴取

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他（　計画期間　）	●		令和2年～令和6年	令和2年～令和5年	事業施工範囲の変更により、期間の変更となった。

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	長者原駅前広場整備	10.0	A=30㎡	12.1	A=73㎡	事業施行範囲の変更	なし	●	
地域生活基盤施設	酒殿駅南口駐輪場整備	76.0	A=600㎡	74.6	A=600㎡	実施内容の見直しに伴う事業費の増額	なし	●	
地域生活基盤施設	長者原駅前情報板、駕与丁公園ルートサイン、舗装ペイント	15.0	N=1基 N=5基	32.8	N=4基 N=4基 L＝290m	情報板の追加 舗装ペイントの追加	なし	●	
高質空間形成施設	酒殿駅南口公衆トイレ(バリアフリー対応)整備	17.0	A=30㎡	30.5	A=30㎡	実施内容の見直しに伴う事業費の増額	なし	●	
高質空間形成施設	酒殿駅前シェルター、ベンチ整備	31.0	A=90㎡ N=3基	23.6	A=65㎡ N=2基	事業施行範囲の変更 ベンチ設置数の変更	なし	●	
高質空間形成施設	長者原駅前シェルター、ベンチ、点字ブロック整備	43.0	A=125㎡ N=3基 L=50m	43.1	A=100㎡ N=2基 L=39m	事業施行範囲等の変更	なし	●	

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査	事業効果分析調査	6.0	1式	1.1	1式	実施内容の見直しに伴う事業費の減少	なし		●
まちづくり活動推進事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
酒殿駅南土地区画整理事業		酒殿駅南地区	23億円	23億円	H30～R3	H30～R3	完了	

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	ふれあいバスの年間乗車人員	人	【従前値】H26～H30の平均年間利用者数。 【目標値】ふれあいバス利用アンケート調査を踏まえて算出した推計年間利用者数。 【評価値】R2～R5（最新値）の近似曲線を用いた推計により算出された値を評価値とする。	－		32,576	H26～H30の平均	38,000	R6	モニタリング	－	－	モニタリング	－	●	
										事後評価	確定	52,457	事後評価	○		
											見込み ●					
指標2	酒殿駅の1日の乗車人員	人/日	【従前値】H30の1日平均利用者数。 【目標値】1日平均利用者数の増加推計値と酒殿駅南土地区画整理事業による推計増加人数の合計値。 【評価値】R2～R4の近似曲線を用いた推計により算出された値を評価値とする。	－		653	H30	1,060	R6	モニタリング	－	－	モニタリング	－	●	
										事後評価	確定	1,138	事後評価	○		
											見込み ●					
指標3	粕屋町に対してどのくらいの愛着を感じているか	%	【従前値】H30アンケート調査による「粕屋町への愛着度」 【目標値】愛着度の増加を推計。 【評価値】R5実施のアンケート調査結果を評価値とする。	－		62.7	H30	65.0	R6	モニタリング	－	－	モニタリング	－	●	
										事後評価	確定 ●	64.9	事後評価	○		
											見込み					

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	【達成度○の理由】 ふれあいバスの停留所において、本計画では基幹事業として長者原駅と酒殿駅にシェルターとベンチ等を整備したことにより、待合環境が改善し、ふれあいバスの年間利用者数の増加に寄与したと考えられるため、評価は「○」とする。	酒殿駅南土地区画整理事業による区域の人口増加や平成31年に土日運行が開始したことにより、酒殿駅利用者及びバス利用者が増えたことを考慮する必要がある。
指標2	【達成度○の理由】 酒殿駅において、本計画では基幹事業として酒殿駅南口駐輪場整備、酒殿駅南口公衆トイレ（バリアフリー対応）整備、酒殿駅前シェルター、ベンチ整備等を行っており、酒殿駅の利便性が向上し、酒殿駅の一日あたりの利用者数の増加に寄与したと考えられるため、評価は「○」とする。	－
指標3	【達成度○の理由】 目標値65.0%のところ、評価値は64.9%の未達となっている。ただし、「強く感じている」に相当する「9～10点」の割合が増加していること、目標との差が0.1ポイントであること、目標値の設定時の趣旨は「割合が増加していること」であり、従前値の62.7%は上回っていることから、その目的を達成しているため、評価を「○」とする。	平成30年度に行われた町民意識調査においての質問は「粕屋町にどのくらい愛着を感じますか。」で、令和5年度に行われた町民意識調査の質問は「あなたは、粕屋町が好きですか。「大好き」を10点、「大嫌い」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。あてはまる点数を1つ選んで○をつけてください。」に変更された。 9～10点の回答を平成30年度調査の「強く感じている」、7～8点の回答を「感じている」として回答割合を算出した。

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○ :評価値が目標値を上回った場合
△ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
× :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）			本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1	－							モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			
その他の数値指標2	－							モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			
その他の数値指標3	－							モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

－

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）		

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）		

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）			

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
粕屋町まちづくり研究会	都市計画課が主管課となり、学識者（九州大学大学院人間環境学研究院 都市・建築学部門 准教授：鶴崎直樹先生、教授：黒瀬武史先生）が参加。	2025年1月14日	都市計画課都市計画係

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指　標　名		ふれあいバスの年間乗車人員		酒殿駅の1日の乗車人員		粕屋町に対してどのくらいの愛着を感じているか			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	長者原駅前広場整備	◎	・令和5年度の最新値で46,240人と目標値を大きく上回っている。令和6年度の推計値においても52,457人と推計されており、目標値を上回る予測となっている。 ・長者原駅及び酒殿駅の駅前整備により、ふれあいバスの待合環境が大きく改善し、快適で過ごしやすい環境づくりに貢献した結果、年間乗車人員数が増加し、目標値の達成となった。 ・酒殿駅南土地区画整理事業による人口の増加やバスの土日運行の影響もあり、酒殿駅利用者及びバス利用者が増えたことを考慮する必要がある。	－	・酒殿駅において、本計画では基幹事業として酒殿駅南口駐輪場整備、酒殿駅南口公衆トイレ（バリアフリー対応）整備、酒殿駅前シェルター、ベンチ整備等を行っており、酒殿駅の利便性が向上し、酒殿駅の一日あたりの利用者数の増加に寄与した結果、目標値の達成となった。 ・なお、最新値（令和4年度）では797人/日と目標値を下回っているが、計画が開始した令和2年度と比較すると着実に増加の傾向にある。	○	・従前値との比較には、質問文の変更があったことを留意することが必要だが、令和5年度の町民意識調査結果の当該質問の回答割合は64.9%で、目標値の65.0%に及んでいない。 ・しかし、目標とのポイント差が0.1であること、目標値の設定時の趣旨は「割合が増加していること」であり、従前値の62.7%は上回っており、その目的を達成していると判断する。 ・事業との関連性を分析すると、駅を利用する上でマイナスとなるポイントを改善したことにより、一定の効果は得られたと考えられる。		
	酒殿駅南口駐輪場整備	○		◎		○			
	長者原駅前情報板、鴈与丁公園ルートサイン、舗装ペイント	○		－		○			
	酒殿駅南口公衆トイレ(バリアフリー対応)整備	◎		◎		○			
	酒殿駅前シェルター、ベンチ整備	◎		○		○			
	長者原駅前シェルター、ベンチ、点字ブロック整備	◎		－		○			
提案事業	事業効果分析調査	－		－		－			
関連事業	酒殿駅南土地区画整理事業	◎		◎		－			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

今後の活用	・引き続き、適切な維持管理を推進し、	・今後、酒殿駅の周辺で土地区画整理	・まちの玄関口である駅前広場から賑	

添付様式４－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指　標　名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成へ	総合所見	要因の分類	指標改善への	総合所見		指標改善への	総合所見		指標改善への	総合所見	
基幹事業			該当なし										
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
××:事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった

改善の方針（記入は必須）				

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
粕屋町まちづくり研究会	都市計画課が主管課となり、学識者（九州大学大学院人間環境学研究院 都市・建築学部門 准教授：鶴崎直樹先生、教授：黒瀬武史先生）が参加	令和7年1月14日	都市計画課都市計画係

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・粕屋町の人口は、国立社会保障人口問題研究所の推計によると、2045年まで増え続けるとされており、このままでは人口密度の増加や更なる交通渋滞が懸念されるため、将来を見据え誰もが歩いて暮らせる集約型の都市形成を目指し、拠点となる駅周辺の充実やより利便性の高い交通ネットワークの形成に取り組まなければならない。	・本計画の整備においては、長者原駅及び酒殿駅の駅前環境の整備及びふれあいバスの待合環境の向上し、交通結節点としての機能が向上した。	・駅前の都市機能の向上や、交通結節点としての機能を強化し、駅周辺の拠点性の向上や利便性の高い交通ネットワークの形成を図る必要がある。 ・公共交通を利用する上での環境改善が図られたが、歩いて暮らせるようにするためには、歩行空間の安全性を確保し、誰もが歩いて暮らせる取り組みを推進する必要がある。	・世帯数増加に伴う住宅需要に対応する必要がある。 ・長者原駅・酒殿駅の整備による効果の発現が明らかとなったことから、今回の整備範囲に含まれていない長者原駅の西口や西口までのルート、原町駅周辺においても整備改善を図り、相乗効果によるまちの賑わいを創出していくことが必要である。
・町が運行しているふれあいバスは、平成29年度に行った「町内巡回バスアンケート」での結果を受け長者原駅前ロータリーへの乗り入れを行うこととしたが、ロータリー内に停車中の車があると、ふれあいバスは通ることができなくなってしまうため、ロータリーの改良整備が必要である。	・本計画の基幹事業である長者原駅前広場整備において、北口のロータリーが改良され、自動車の離合が可能となった。	・引き続き、トラブルとなっているロータリー内の停車車両について、長時間の停車禁止やバスに乗降する場所への停車を禁止する等の規制が必要である。	
・酒殿駅周辺については、農地であったため、拠点としての機能や歩行者ネットワーク機能が全くない状態であるため、現在施工中の土地区画整理事業に合わせ、駅を中心とした拠点となれる整備が必要である。	・酒殿駅においては、南口駐輪場整備、公衆トイレ(バリアフリー対応)整備、シェルター、ベンチ整備等の事業により、交通結節点としての機能向上に一定の効果があった。	・駅前の整備により交通結節点としての機能や、駅利用者の利便性が向上したが、拠点となりうる機能を持つ施設の誘致やまちの賑わいを創出する取り組みが必要である。	
・今後も人口増加が見込まれているが、転入・転出の移動率が高い状況となっている。今後は町への愛着や誇りを高め、定住人口の確保につなげていくためのシティプロモーションの視野を取り入れ、町の魅力を町内外に発信し町の認知度を向上させ「選ばれる自治体」になる必要がある。	・長者原駅、酒殿駅の整備により、マイナスとなる要素の排除がされ、町の魅力の向上、町への愛着度の向上に一定の効果があったと考えられる。	・現在、転入超過となっているが、転出数と比較するとその差は小さい。定住人口を確保し、転出数を抑制するためには、町のさらなる魅力の創出や移住しやすい仕組み作りが必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	公共交通の利便性向上	・ニーズに合わせた運行計画の継続的な見直しや、バス停の待合環境の充実、交通施設の適正な維持管理等によりさらなる駅やバスの利便性の向上を図る。 ・町民はもちろん町外者へも利用が広がるよう広報活動・情報発信等を推進し、認知度の向上、利用促進を図っていく。	・バス停留所付近へのベンチの設置 ・地域公共交通計画の策定 ・駐車場、駐輪場の整備 ・運行状況の情報提供・発信 ・バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化の推進

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	利便性の高い交通ネットワークの形成	町内に6つのJR駅を持ち、恵まれたインフラを活かすために、パークアンドライドや利用状況に則した運行計画の見直し、新駅の設置等、まちづくりと連携した公共交通網の形成を図る必要がある。	・運行計画・運行ルートの見直し ・運行路線の整備
	まちの魅力の向上	町への愛着度をさらに高めるため、さらなる魅力づくりが必要である。長者原駅周辺においては「まちの顔」として商業施設の立地誘導や景観向上等により賑わいの創出を図り、酒殿駅周辺においては土地区画整理事業による人口増加に対応するための生活関連施設の確保や地域拠点として都市機能の向上を図る等、まちづくりと連携した施設整備や土地利用を図る。	・まちの魅力・暮らしの情報発信の強化 ・文化財を活かした魅力づくり ・区域区分・用途地域見直し ・土地区画整理事業 ・駅周辺まちづくり構想 ・長者原駅西口のルート整備 ・原町駅周辺の整備
	歩いて暮らせるまちづくり	公共交通だけではなく、歩行者にとって快適な交通環境を確保する。	・歩道の確保 ・街灯、点字ブロック等道路施設の設置

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

（有識者コメントより）

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画 予定時	計測方法	その他特記事項
指標1	ふれあいバスの年間乗車人員	人	32,576.0	H26～H30の平均	38,000.0	R6	定	####	○	あり	●	－		
							●			なし				
指標2	酒殿駅の1日の乗車人員	人/日	653	H30	1,060	R6	定	####	○	あり	●	－		
							●			なし				
指標3	粕屋町に対してどのくらいの愛着を感じているか	%	62.7	H30	65.00	R6	●	64.9	○	あり	●	－		

							込み			なし			
指標4							定			あり			
							込み			なし			

その他の数値指標1	–						定				→		
							込み						
その他の数値指標2	–						定				→		
							込み						
その他の数値指標3	–						定				→		
							込み						

→

→

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	－	数値目標の設定趣旨を振り返られるようにし、計画時に明記する必要がある。
	うまく いかなかった点	設定趣旨を明確にしていない指標があった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	－	－
	うまく いかなかった点	－	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	－	－
	うまく いかなかった点	－	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価において、数値目標を達成した指標や効果発現要因の分析を通じて、今後取り組むべき課題が明らかになった。	事後評価では、指標の達成度が明確になることで、計画時の不備や整備計画の事業の効果発現があったかを検証するとともに、今後のまちづくりに向けての課題を明らかにすることが重要である。
	うまく いかなかった点	－	
その他	うまくいった点	－	－
	うまく いかなかった点	－	

添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

－

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	粕屋町ホームページ	令和7年2月14日～27日	令和7年2月14日～27日	電子メールにて受付	都市計画課都市計画係
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	意見書の提出は無かった。

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	－	－	－	－	－
その他の委員	－				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	－
	成果の評価	－
	実施過程の評価	－
	効果発現要因の整理	－
	事後評価原案の公表の妥当性	－
	その他	－
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	－
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	－
	フォローアップ	－
	その他	－
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	－
その他		－

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理（添付様式5）、今後のまちづくり方策の検討（添付様式6）、評価委員会の審議（添付様式9）以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
九州大学大学院　人間環境学研究院　都市・建築学部門 准教授　鶴崎　直樹　先生 教授　黒瀬　武史　先生	令和7年1月14日	都市計画課都市計画係

有識者の意見	（指標について） ・駅周辺整備がメインであるが、指標の1つに「ふれあいバスの指標」が出てきていることの関係性を、分かりやすく書くべきである。（指標①） ・ふれあいバスの乗車人員について、酒殿駅や長者原駅（駅別）の利用者数を分析することで駅別の貢献度が見えてきて、分かりやすくなるのではないか。（指標①） ・粕屋町の拠点である長者原駅が指標ではなく、酒殿駅を指標としたことを記載しておく必要があるのでは。（指標②） ・なぜ駅や公園の整備なのに、愛着が指標になるかを書くべきである。（指標③） ・町への愛着度について、「〇〇に対しての愛着度」のように、もう一つ踏み切んだ愛着度への質問を用意するべきである。（指標③） （全体を通して） ・中心拠点の区域に入っている原町駅周辺について、今回、整備されていないため、今後は原町駅周辺の改善も考えるべきである。 ・長者原駅については、今回北口をメインに整備を行っているが、図書館のある西口や西口までのルートについても、今後、整備改善を検討する余地がある。